

9月9日
「救急の日」

「消防フェスティバル」開催!

消防士の仕事や災害の怖さを学ぶ

北後志消防組合積丹支署（佐谷支署長・署員17名）は、9月9日「救急の日」に、消防署前で住民体験型の「消防フェスティバル」を開催し、小学生や保育園児、親子連れで賑わいました。

今回が初めてのこの催しでは、消防資器材等が並べられた展示ブースのほか、応急手当や放水、ロープ渡り、濃煙が体験できるブースが用意されました。



▲ロープ渡り体験

展示ブースでは、災害時に使用する大型エアテント内に、普段近くで見ることができない空気呼吸器や水難救助資器材などが並べられ、パネル展示には過去の災害写真が張り出されるなど、災害の恐ろしさが映し出されています。

また、株式会社ミの協賛で、防災用品の展示スペースも設けられ、非常食の試食が行われました。

放水体験では、小さな防火服を身にまとい、本物の放水ノズルを構え、”的”を目掛けて放水し、消防車から出る水の圧力を体験。ロープ渡りでは、安全带とヘルメットを装備し、力いっぱいロープを掴み、渡り切る体験に挑戦しました。

その他、濃煙体験や応急手当体験も行い、煙りの怖さや心臓マッサージの方法を学びました。

また、7月14日に札幌市で行



▲応急手当体験

われた「全道消防救助訓練指導会」に出場した隊員3名による「ほふく救出訓練」が行われ、普段見ることのない訓練に、子どもたちから大きな声援を受けながら、大会本番同様の緊張感の中、厳しい訓練の成果を披露してくれました。

今回の消防資器材等を使用した体験型イベントは、町民の消防活動に対する理解の向上はもちろん、子どもたちにとって消防士の仕事や災害の怖さを学ぶ良いきっかけとなりました。積丹支署では今後も、住民体験型のイベントを行っていく予定です。

最強の消防団を目指して!

“来岸”で初の「教育訓練」

北後志消防組合積丹消防団（今井諭団長・団員95名）は9月16日、余別漁港（来岸地区）で教育訓練を行いました。

消防団の活動を広く町民に理解してもらうため、今回初めて美国町以外の地区での開催となり、参加した団員は訓練礼式や小型ポンプ取扱訓練、模擬火災訓練を行いました。

前半は、訓練礼式と小型ポンプ取扱訓練を行い、緊急時に迅速な消防活動を行うために必要な基本的な手順の再確認を行い、一つひとつ迅速で慎重な作業を進めていました。

後半は、消防団と支署職員合同の模擬火災訓練が行われ、荷捌所を火災発生現場に見立て、消防車両で現場に到着するところから訓練開始。団員は小型ポンプやホースの取扱い、そして放水にいたるまでの一連の流れを確認する訓練に汗を流しました。

訓練終了後には、小学生以下を対象とした放水体験も行われ、防火服を着た子どもたちは、実際に使用されている放水ノズルを手に消防士気分を味わっていました。



▲模擬火災訓練

“未来を担う” 地域職場体験学習

8月28・29日の2日間、美国中学校3年生13名が、進路や将来に役立たせることを目的とした職場体験学習を行い、町内8カ所の事業所で、初めての体験に緊張しながらも、興味を持って楽しみながら学んでいました。

岬の湯しゃこたんでは、モップ掃除や風呂掃除、お客さんの接客、軽食の食器洗いなどを行いました。加藤里菜さんは、「最初は慣れなかったけど、慣れると楽しいです。」と話し、角田小雪さんは、「軽食の時は、接客が大変でした。」と話していました。

また、エイジングステーションやすらぎでは、最初に、高野善文事務局長から社会のコミュニケーションや団体の仕事の大切さを学び、利用者の介助や入浴の手伝いをしました。成田琴実さんは、「利用者の方々には積極的に笑顔で向き合うことに心がけました。」と緊張感を持ちながら様々な介護をこなしていました。

その他にも、グリーンホリデーでは、ソフトクリームのコーンの取り替えやソフトクリーム作りを体験するなど、13名がそれぞれの場所で様々な体験を行い、仕事をするこの大変さを学び、自分たちの将来に向けて有意義なものとなりました。



グリーンホリデー



美国小学校



岬の湯しゃこたん

(敬称略)



びくに保育所

職場	体験者	
グリーンホリデー	たかの なつみ 高野 夏海	ほんま ももな 本間 桃奈
ファーム美濃	まつる 松浦くるみ	
エイジングステーションやすらぎ	なりた ことみ 成田 琴実	
岬の湯しゃこたん	かくた こゆき 角田 小雪	かとう りな 加藤 里菜
びくに保育所	かとう かずき 加藤 一輝	なりた のの 成田 暖乃
みなと保育所	かわむら 虹美 川村 虹美	みかみ 琴加 三上 琴加
美国小学校	ささき てつばら 佐々木鉄八	せいとう さち 清藤 早智
積丹町役場	さいとう たける 斉藤 丈瑠	

＜斉藤丈瑠君の「町広報制作」体験の感想＞

自分が作った記事について、写真を撮りに行ったり、取材をしたりと最初から最後までとても良い経験になりました。進路の一部として今回広報を選びました。企画課の皆さんには感謝しています。貴重な体験をさせてもらいありがとうございました。

(注) このページの紙面の文章作成及び写真撮影は、
斉藤丈瑠君によるものです。